

TEL 075(561)0622 FAX 075(532)2129 HP <http://noh.fumi.org/>



## ■ ようこそ能の世界へ！

能は今から約 650 年前（室町時代）観阿弥、世阿弥親子によって大成された日本独自の芸能です。

シェークスピアの 200 年前に生まれた世阿弥は、衆人愛敬（しゅうじんあいぎょう）— 多くの人々に楽しみ愛される — ことをモットーに時の將軍・足利義満の惜しめない庇護の下、父・観阿弥の能をより高度な芸術性の高いものへと完成させていったのです。

- 能の大きな特徴は、仮面 一面（おもて）— を付けることです。能面は無表情のように見えますが、角度や演者の動きによって、実際には喜怒哀楽を表現します。そして能面を付けることによって、人とは別の次元の者に変身することもできるのです。
- 能の衣装 一装束（しょうぞく）— には多くの種類がありますが、日本人が古くから伝えてきた技術によってできる芸術品です。現代の私たちが見ても少しも古臭くなく、洗練された美しさを持っています。
- 能の音楽には、笛・小鼓・大鼓・太鼓の四つの楽器が使われます。これらの楽器、人が謡う 謡（うたい）によって音楽劇として構成されます。
- 狂言は、能と同じ舞台上で演じられる喜劇（コメディ）です。また能の作品中では説明役になったり、物語の流れを助けたりと大きな役目も果たします。
- 能のストーリーは大体において単純なものが多いのですが、その展開の中で人間の本質を深く味わうことができるようになっていきます。ストーリーを追うよりも、あなたの感性で感じてください。
- 能舞台は、見物席（見所-けんしょ）に突き出ている、お客様は前、横から鑑賞できます。能舞台の背景は老松が描かれた板でいつも変わりません。客席と舞台を仕切る幕はありません。そして舞台と鏡の間（面をかける神聖な場所）をつなぐ橋掛かりがあります。橋掛かりは舞台への通路でありながら、現実と異次元の世界とを結ぶ架け橋でもあります。能は、舞台と客席が同じ次元の空間において相互交流の上に成立している芸能です。（最終ページ記載の舞台図参照）
- 能の作品は大きく 5 つのジャンルに分けられます。

1. **神**——神様を主人公としたもの。
2. **男**——主として源氏、平家の武将を主人公としたもの。
3. **女**——古典物語に登場するヒロインや草木の精など美しい女性を主人公としたもの。
4. **狂**——子供を亡くしたり、探したりして狂乱状態になっている女性が主人公であったり、敵討ちなどドラマチックなもの。
5. **鬼**——鬼、天狗、妖怪など人間以外を主人公としたもの

## ■ 能 “敦盛” “羽衣” について



**敦盛** あつもり  
我が子と同じ十六歳の少年の首を討った熊谷直実。その懐には、錦の袋に入った青葉の笛があった。戦いを前にしながら、管絃の風雅を楽しんだのはこの人たちであつたかと、熊谷は涙を流す。花の命を散らした悲痛さと共に、荒武者がそれに無常を感じて出家した心のやさしさに、中世の人たちはより感動したのではなかつたろうか。蓮生法師となつた彼は悲劇の場所—ノ谷にやってくる。敦盛の亡霊との再会。世阿弥の書いた可憐な修羅能。



**羽衣** はごろも  
日本に伝わる羽衣伝説を主題にした作品。物語の舞台は世界遺産となつた三保の松原と富士山。天人が松にかけておいた美しい衣を漁師が見つけた。羽衣がなければ天上界に帰ることの出来ない天人は漁師に天人の舞を見せる事を約束して衣を返してもらいます。今回は天人が羽衣を返してもらい喜びの舞をまいながら昇天していく様子を演じてお見せいたします。

## ■ 狂言 “附子” について



トリカブト殺人事件が世を騒がせたことがあった。ブスとはトリカブトからとった毒素の名前。当時、貴重品だった黒砂糖を「吹く風に当たってさえ即死」する毒だと騙したばかりに、散々な損害となつたケチンボ主人の物語。好奇心丸出し、したたかな召使たち。

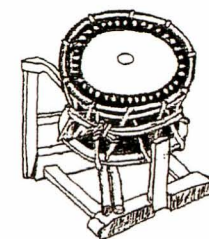
室町期の庶民たちの生き生きとした様子を伝えてくれます。最初のところでブスを怖々と食べてみるところも面白い。使用人にしてやられた主人の悔しさ。さてさてこのあとどうなったのやら……。

## ■ “囃子・能面” について

### ＜能のお囃子（楽器）＞



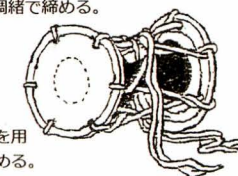
囃子方は「笛」「小鼓」「大鼓」「太鼓」の四種類、四拍子とよばれている。



（太鼓）革は牛皮、胴には櫓などを用いる。表革と裏革を麻の調緒で締める。



（大鼓）馬皮を張った表革と裏皮とで胴をはさみ、麻の調緒で締める。



（小鼓）馬皮を張った表革と裏皮とで胴をはさみ、麻の調緒で締める。



（笛）能管と呼ばれる素材は、煤竹が良材。雅楽の篳篥を祖とする。